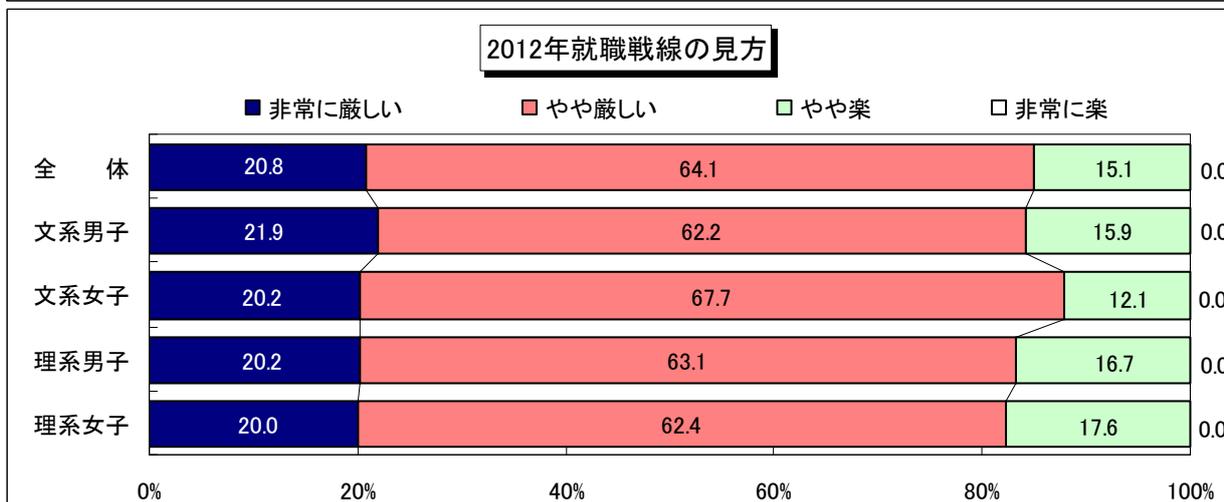
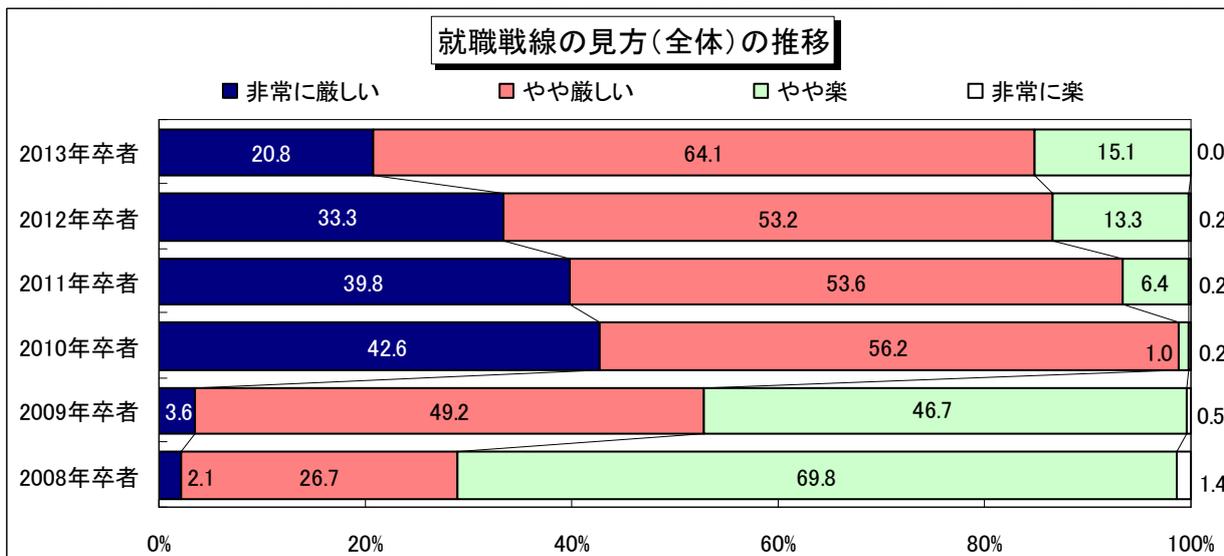


第1回調査

1月1日現在の就職活動状況

1. 就職戦線の見方

今年の就活生は、自分たちの就職戦線が1学年上の先輩たちに比べてどのようになると見ているのか、見通しを聞いた。「非常に厳しい」「やや厳しい」の合計、つまり、より厳しくなると見ている人は84.9%と依然8割を超えている。しかし「非常に厳しい」の割合が33.3%から20.8%に減っており、厳しさの度合いは緩和されていると言える。「やや楽」も13.3%から15.1%へと微増した。「東日本大震災で大きく混乱した先輩たちに比べればまだ楽ではないか」といった意見のほか、セミナーなどで実際に企業と接した感触から、「採用意欲の高さを感じる」といった声もある。しかしながら、欧州金融危機や円高などを受け、景気の不透明感や企業業績悪化を理由に「採用数が再び減るのでは」との懸念の声も目立つ。就職戦線のスタートが前年より2カ月遅れたことで、「選考開始の4月までに自分に合う企業に巡り合えるか不安」と危機感を募らせる学生も少なくない。



■「非常に厳しい」と見る理由

○現在の日本の景気は、東日本大震災や欧州危機の影響で低迷しており、就職戦線は非常に厳しいものになると思う。 <文系男子>

○採用数を絞っているところも多く、「いい人がいれば」というようなスタンスの企業もあることや、他の就活生も危機感が高く、ハイレベルな争いになると思われるから。 <理系男子>

■「やや厳しい」と見る理由

○就職活動が2カ月遅れたことでその分企業を見る期間が減るため、志望企業を決めるという意味では厳しいと思う。 <文系男子>

○短期決戦型になり、競争率が高まりそう。また選考が集中した期間に内々定が取れなかった場合、長期化して厳しくなるように思われるため。 <理系女子>

○採用枠が増えたと報道されるが、学生が希望する企業は人気集中しており、かわらず厳しいと感じる。 <文系女子>

■「やや楽」と見る理由

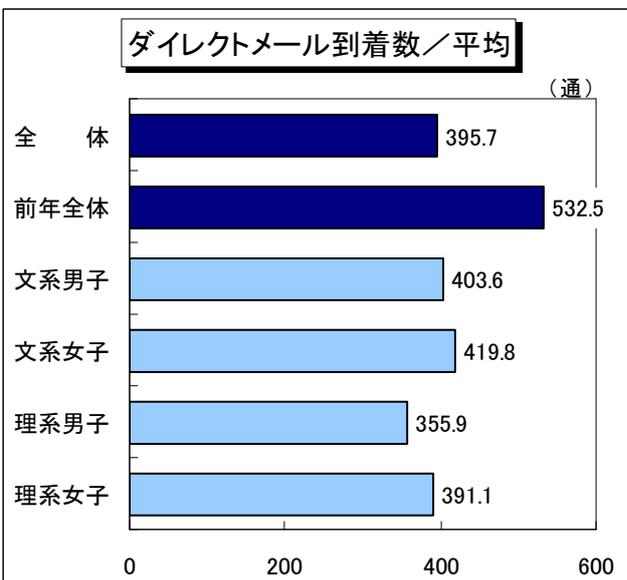
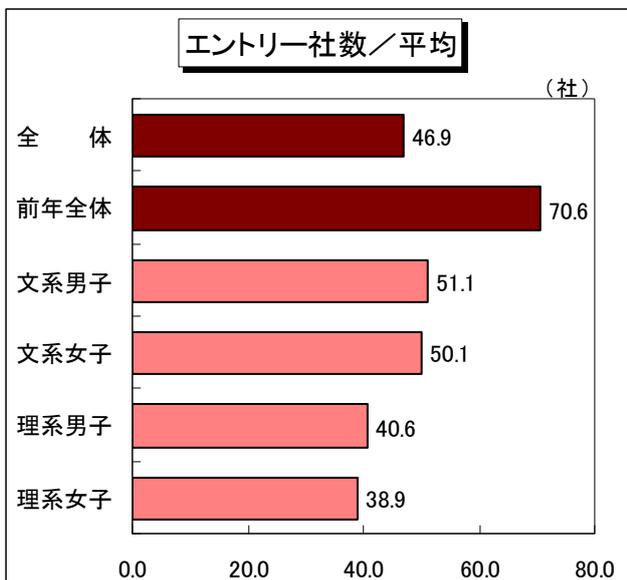
○震災によって採用時期がずれ込んだ一学年上の代に比べれば、開始時期は遅まったものの平常通りの就職活動ができると思う。 <文系男子>

○日本全体が復興しようとしている中で、企業も積極的に採用しようとしているところが多いと感じているから。 <理系女子>

2. 企業へのエントリーと、ダイレクトメール到着の状況

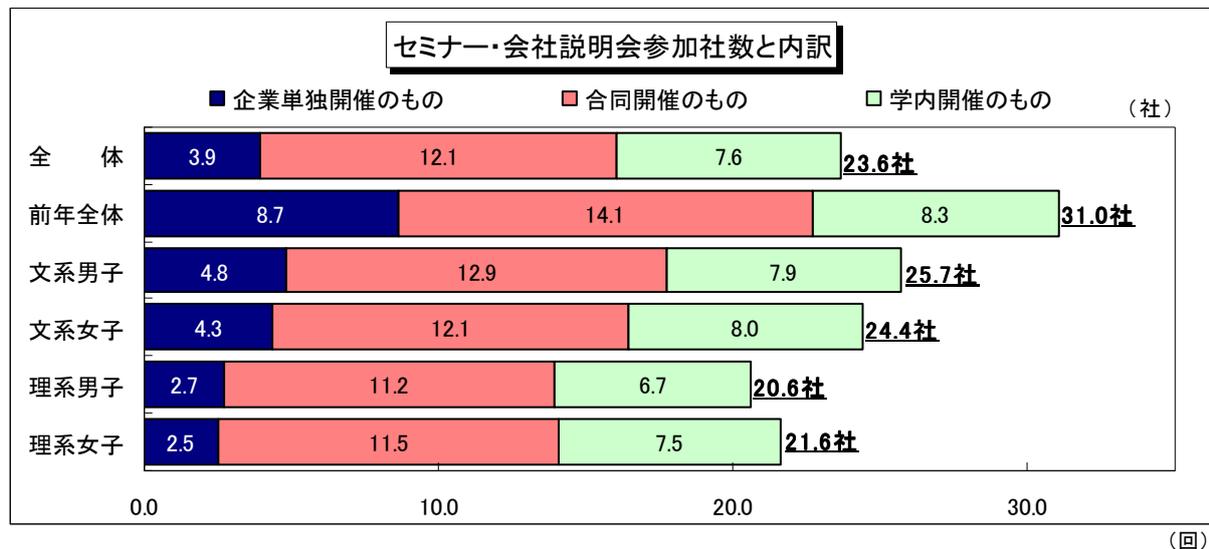
1月1日時点で企業に「エントリーした」学生は全体の97.8%と前年同期(98.9%)とほぼ同率。しかし、一人あたりのエントリー社数の平均は46.9社と、前年同期の7割弱にとどまる。多くの企業でエントリー受付開始を例年の10月から12月へと遅らせたことが要因だろう。しかし、受付開始から1カ月間での数字であることを考えると、前年以上にハイペースで進んでいると言える。

一方、届いたダイレクトメールの数は、郵送・Eメールなど全形式の合計で平均395.7通。前年同期に比べ7割程度だが、前年の1月時点の数は就職戦線開始から3カ月での累計であるのに対し、今年は1カ月間での数だ。1日あたり受け取る数を考えると前年の2倍以上に上る計算になり、整理しきれていないケースも多いと見られる。企業側も期待した反応を得られなかった可能性がある。



3. セミナー・会社説明会への参加状況

セミナー・会社説明会の平均参加社数は23.6社。前年同期より7.4社少なく、とりわけ企業単独開催のものが大きく減っている。一方、合同セミナーへの来場回数の平均は3.0回。訪問した社数は12.1社と、微減にとどまる。企業単独開催自体が減っている可能性もあるが、一度に多くの企業を訪問できる合同セミナーを優先し効率化を図る学生が多かったようだ。これも開始から1カ月間の数字であることを考えると、やはり前年よりも早いペースで足を運んでいたことがわかる。

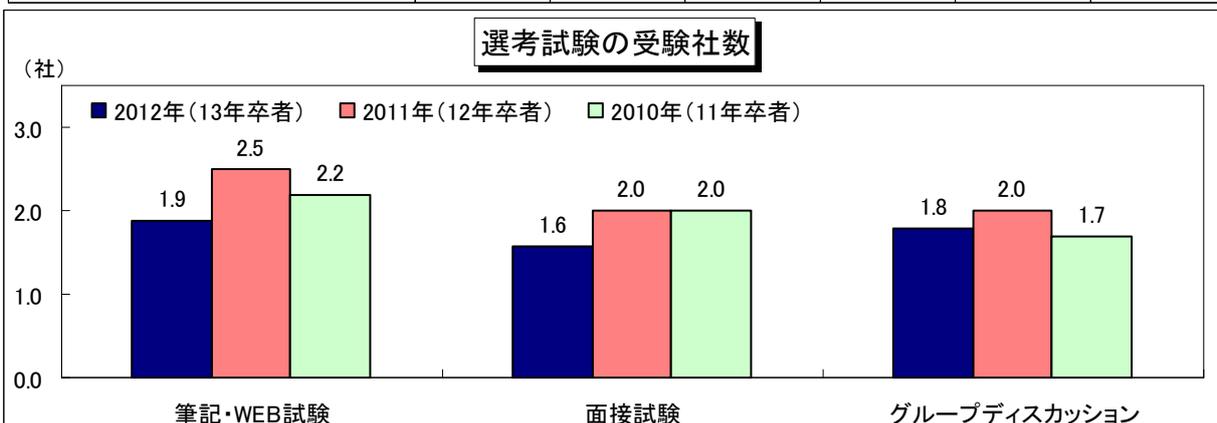


	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
合同開催セミナーへの来場/平均	3.0	3.3	3.1	3.0	2.8	3.1
学内開催セミナーへの来場/平均	3.6	4.0	3.9	3.9	2.8	3.4

4. 選考試験への参加状況

各選考試験の受験状況を見てみると、最も多い「筆記・WEB試験」でも受験者は28.1%と前年同期より10ポイント以上減っている。面接試験に至っては、受験者は7.6%と前年の4割未満だ。企業側の採用活動開始時期が2カ月ずれたことに加え、倫理憲章の見直し初年度とあって、日本経団連加盟企業でなくとも早期選考を自粛していると思われる。受験をしたという学生も、多くは外資系やマスコミといった選考の早い企業を数社受けた程度というのが実態だろう。

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
筆記・WEB試験を受験した	28.1	39.2	32.1	27.1	23.6	28.2
面接試験を受験した	7.6	19.3	11.0	6.0	5.8	5.9
グループディスカッションを受験した	7.9	15.5	11.5	5.6	5.8	7.6



5. 現時点での志望業界

1月1日の時点で志望業界を「決めている」学生は92.6%だった。9割を超え、前年同期(94.6%)に迫る数字だ。前年度調査では、就職活動開始から約1カ月半後の11月中旬に最初の調査をしており、その時点では65.7%だった。今年は開始1カ月で前年の3カ月に匹敵する水準に達している。短期間に企業研究を進めなければならないため、業界を絞らざるを得ないのかもしれないが、活動初期の少ない情報をもとに志望を決めてしまっている恐れもある。

志望業界を40業界の中から5つまで選んでもらったが、前年3位の「エネルギー」が13位へと大きく順位を下げたほかは、前年と大きな変動はなかった。属性全体で「銀行」が28.9%で最も多く、1位を維持。「水産・食品」が21.2%で続く。3位には前年8位だった「マスコミ」が入った。

志望業界の決定状況

	全体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
志望業界を決めている	92.6	94.6	90.4	92.1	95.0	95.9
志望業界を決めていない	7.4	5.4	9.6	7.9	5.0	4.1

志望業界(上位20業界)

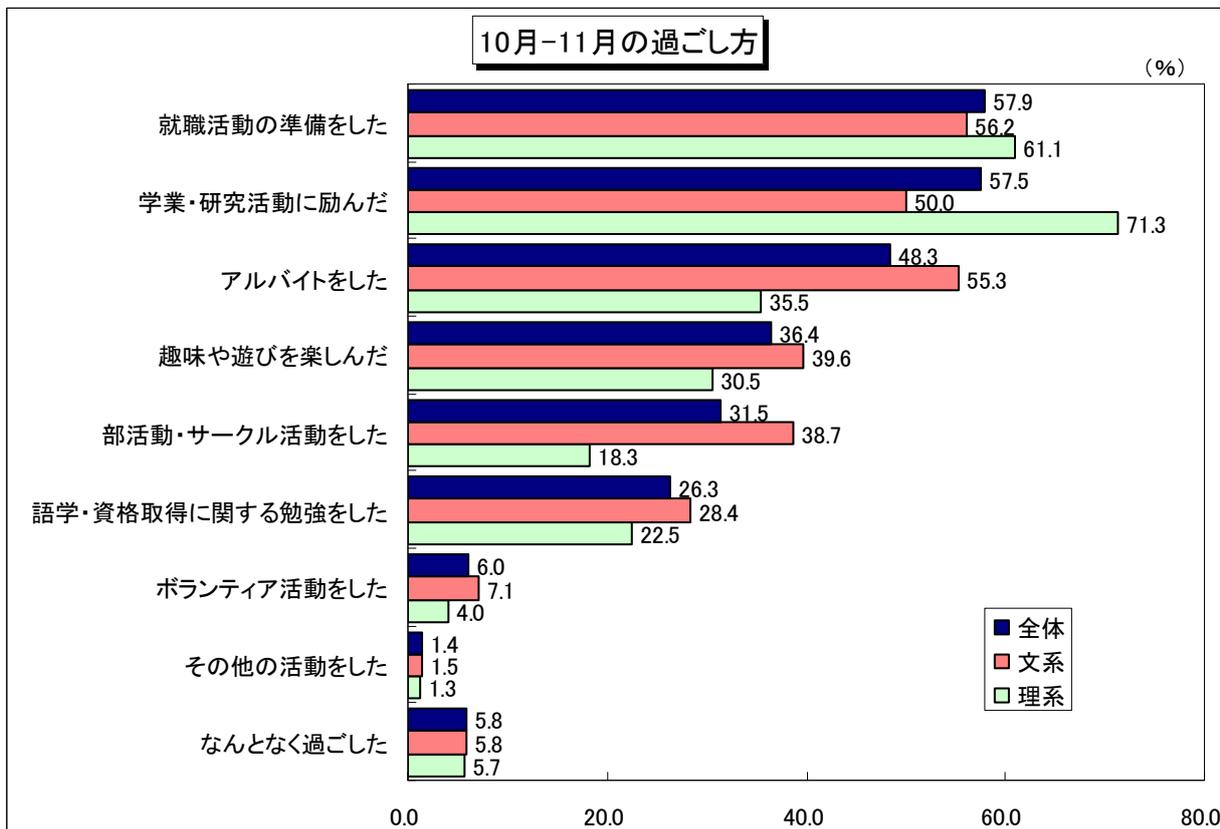
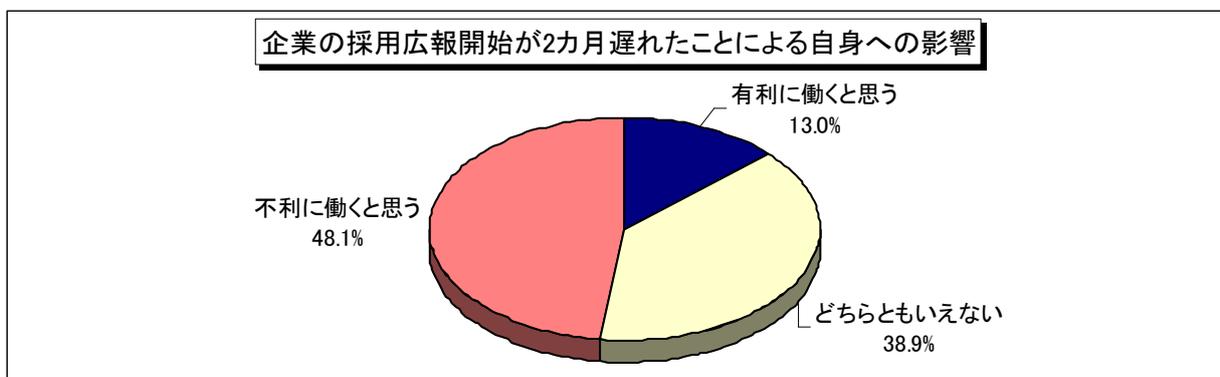
		※5つまで選択 (%)			
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 ① 28.9	銀行 40.8	銀行 36.7	電子・電機 33.0	医薬品・医療関連・化粧品 43.6
2	水産・食品 ② 21.2	商社(総合) 25.5	マスコミ 28.7	情報・インターネットサービス 25.1	水産・食品 41.1
3	マスコミ ⑧ 19.1	マスコミ 22.0	水産・食品 23.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 24.9	素材・化学 38.0
4	商社(総合) ④ 18.1	保険 21.3	保険 22.2	素材・化学 22.9	建設・住宅・不動産 18.4
5	電子・電機 ⑥ 17.0	運輸・倉庫 20.1	商社(総合) 20.8	機械・プラントエンジニアリング 22.6	銀行 12.3
6	素材・化学 ⑩ 16.7	エネルギー 16.1	ホテル・旅行 20.1	自動車・輸送用機器 22.3	農業・林業・鉱業 11.7
7	医薬品・医療関連・化粧品 ⑦ 16.3	商社(専門) 15.7	医薬品・医療関連・化粧品 15.8	水産・食品 19.8	電子・電機 11.7
8	保険 ⑤ 15.9	調査・コンサルタント 15.7	運輸・倉庫 15.2	精密機器・医療用機器 18.7	印刷・パッケージ 11.7
9	情報・インターネットサービス ⑩ 15.0	建設・住宅・不動産 14.9	商社(専門) 12.7	医薬品・医療関連・化粧品 17.3	情報・インターネットサービス 11.7
10	運輸・倉庫 14.7	信用金庫・労働金庫・信用組合 13.4	印刷・パッケージ 12.0	通信関連 15.4	商社(専門) 11.0
11	建設・住宅・不動産 ⑨ 13.9	電子・電機 13.2	信用金庫・労働金庫・信用組合 12.0	エネルギー 15.1	官公庁・団体 11.0
12	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 12.4	水産・食品 13.0	建設・住宅・不動産 11.3	建設・住宅・不動産 13.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.4
13	エネルギー ③ 12.2	情報・インターネットサービス 13.0	素材・化学 10.6	鉄鋼・非鉄・金属製品 10.9	マスコミ 10.4
14	商社(専門) 11.9	証券・投信・投資顧問 11.7	電子・電機 10.2	銀行 10.9	精密機器・医療用機器 8.6
15	調査・コンサルタント 11.7	官公庁・団体 11.1	情報・インターネットサービス 10.2	調査・コンサルタント 10.6	エネルギー 8.0
16	自動車・輸送用機器 10.5	素材・化学 10.3	調査・コンサルタント 9.7	運輸・倉庫 10.6	商社(総合) 8.0
	官公庁・団体 10.5	ホテル・旅行 9.0	官公庁・団体 9.7	官公庁・団体 10.6	調査・コンサルタント 8.0
18	ホテル・旅行 10.1	通信関連 9.0	百貨店 9.5	商社(総合) 9.5	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.4
	通信関連 10.1	自動車・輸送用機器 8.2	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 8.8	OA機器・家具・スポーツ・玩具他 7.8	信用金庫・労働金庫・信用組合 6.7
20	信用金庫・労働金庫・信用組合 9.3	教育 7.7	教育 8.8	ゴム・ガラス・セメント・セラミックス 7.5	運輸・倉庫 6.7
			情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 8.8		

※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内

6. 就職活動開始時期が遅れた影響

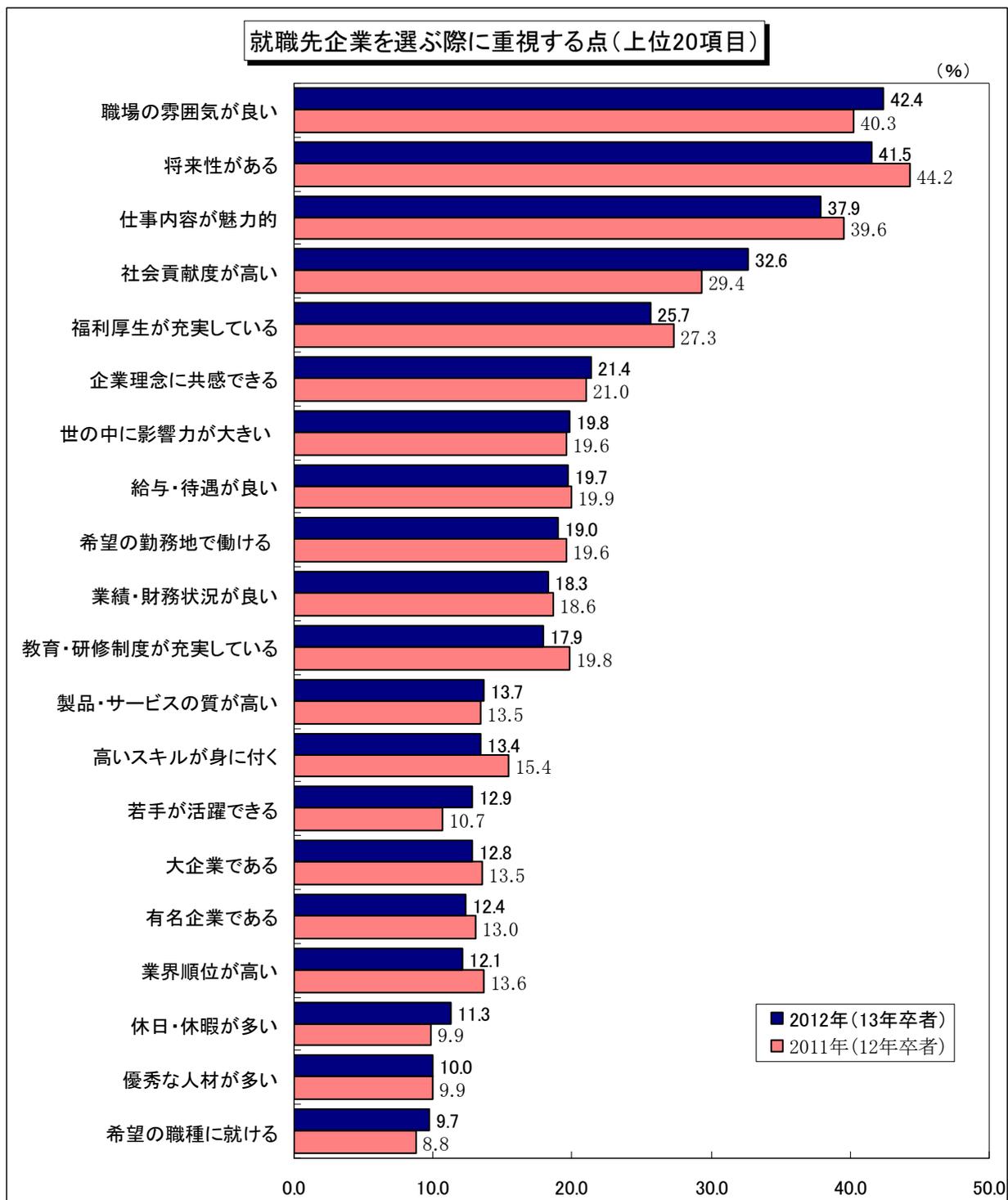
就職活動のスタートが例年より2カ月遅れたことで、自分の就職活動にどう影響が出そうかを聞いた。「有利に働くと思う」13.0%に対し、「不利」は48.1%。多くの学生がマイナスに捉えているようだ。不利になると思う理由で多いのは、「セミナーの日程が重なり訪問可能な企業が減る」「会社のことをきちんと知る前に選考を迎えてしまいそうだ」といった意見。一方、「有利」を選んだ人は、「11月以前から下準備はしており、12月から始めた人をリードできる」という先行派が目立ち、他に「遅くなった分、学生生活を充実させることができ、アピールできる材料が増えた」といった声も多い。

例年なら就活シーズンだった10月-11月の期間を、どのように過ごしていたかという質問には、57.9%が「就職活動の準備をした」と回答。6割近くの学生が何らかの準備を始めていたようだ。但し、「学業・研究活動に励んだ」も57.5%とほぼ同率であり、とりわけ理系学生は男女とも7割を超える。学業に専念する十分な時間を確保するために、採用広報開始を2カ月延ばしたわけだが、少なくとも理系学生にとっては一定の効果があつたと言えそうだ。



7. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

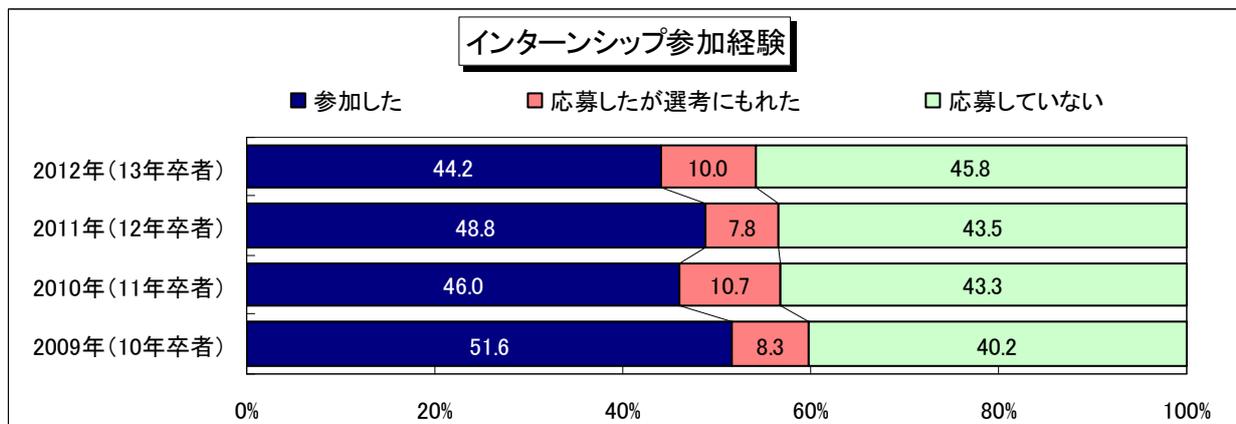
就職先企業を選ぶ際に重視する点を、31項目の選択肢の中から5つまで選んでもらった。前年調査と1位と2位が入れ替わり、1位が「職場の雰囲気が良い」42.4%、2位が「将来性がある」41.5%となった。例年より短い準備期間の中で、セミナーなどで感じ取れる雰囲気を重視しようということだろうか。一方、「社会貢献度が高い」が32.6%と、前年より3.2ポイント増えている。東日本大震災を機に社会貢献に対する意識が高まったと言われるなか、学生の就職先選びにも変化の芽がうかがえる。



8. インターンシップの参加状況

倫理憲章の見直しにより、5日間以上の職業観涵養プログラムに限るなど、実施のハードルが上がったインターンシップ。昨夏は学生が参加しやすい1-day インターンの開催が激減したが、モニター全体の54.2%がインターンシップへの応募経験をもち、大きな変化はなかった。但し、枠が減ったため実際に経験できた学生は44.2%と、前年より4.6ポイント少なかった。参加社数は、1-dayを含むショートプログラムで1.8社、倫理憲章の条件を満たす5日間以上のプログラムで1.3社。

応募した理由に大きな変化が見られ、「職業体験のため」が75.2%と、前年より30ポイント近く増えた。「採用に関係ない」ことがより厳密になったため、学生の意識も変化したのだろう。一方で、「企業研究・業界研究のため」が約10ポイント減ったが、これは格好の研究の場として機能していた1-dayが減ったことが要因と見られ、選考期の企業理解度にも影響しそうだ。

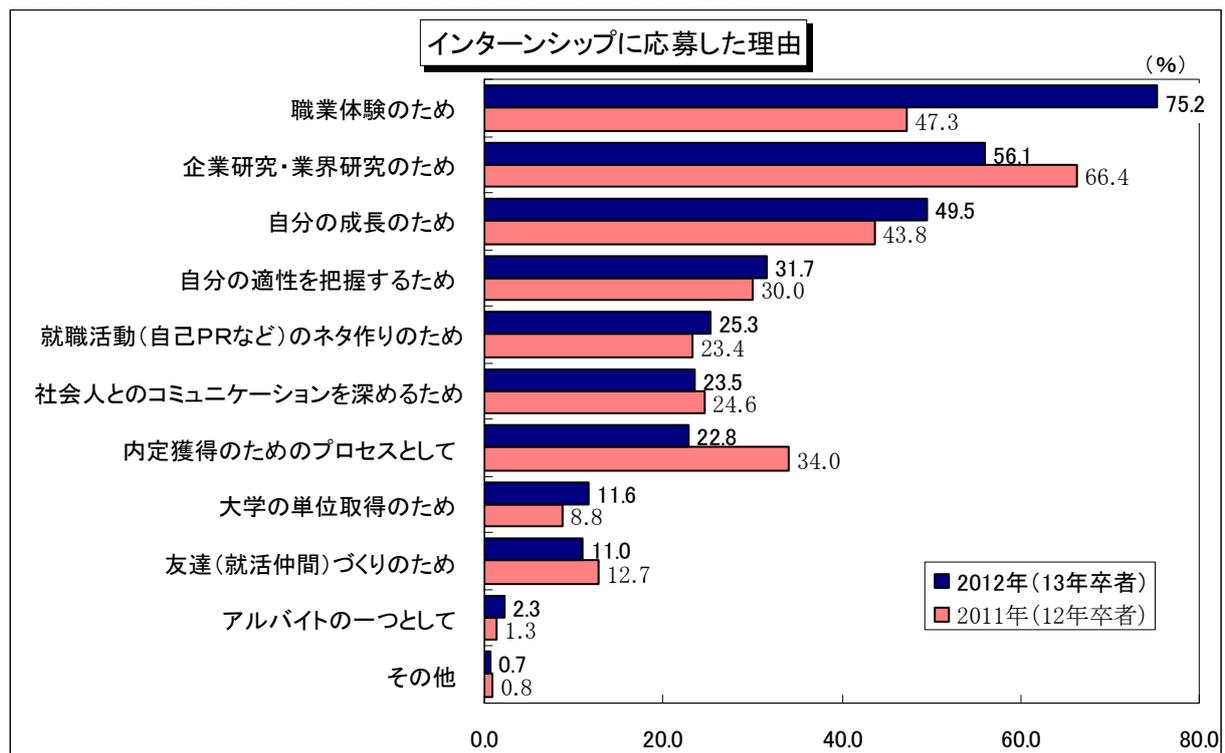


インターンシップ参加社数／平均

(社)

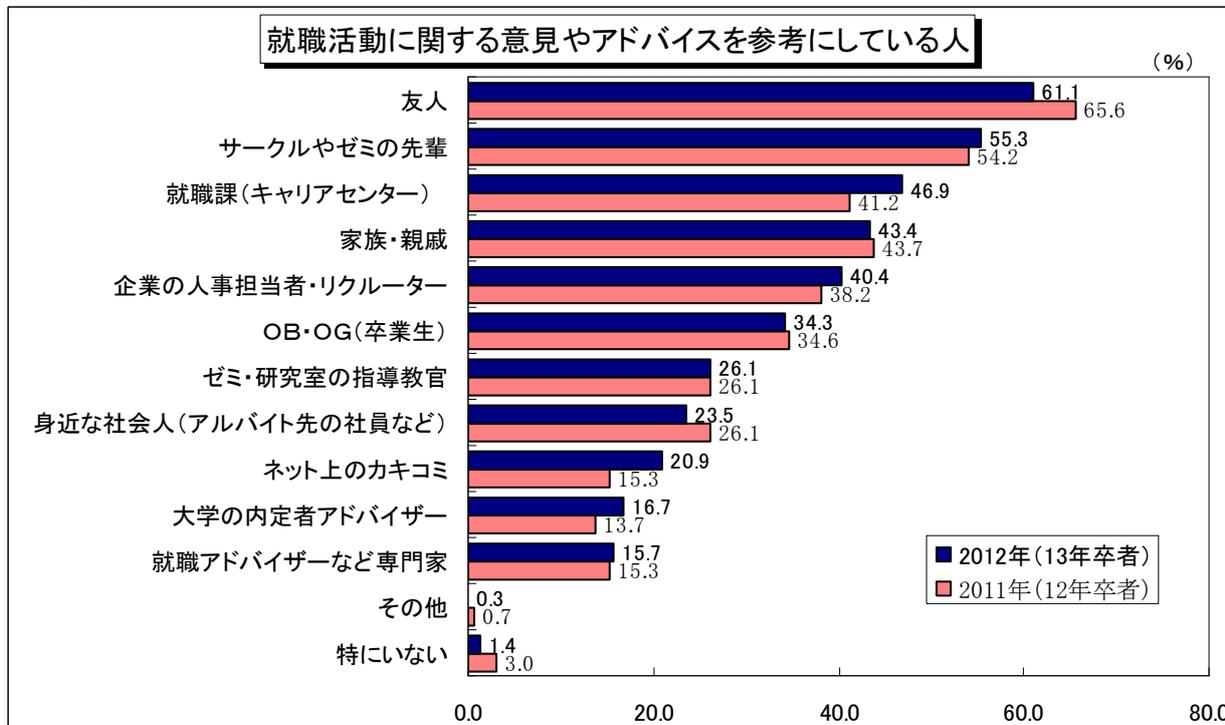
	全 体	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1～4日間のインターンシップ	1.8	3.0	1.9	1.5	1.9	2.1
5日間以上のインターンシップ	1.3	1.3	1.4	1.3	1.2	1.2

※「前年」は、「1～2日間のインターンシップ」「3日間以上のインターンシップ」として調査



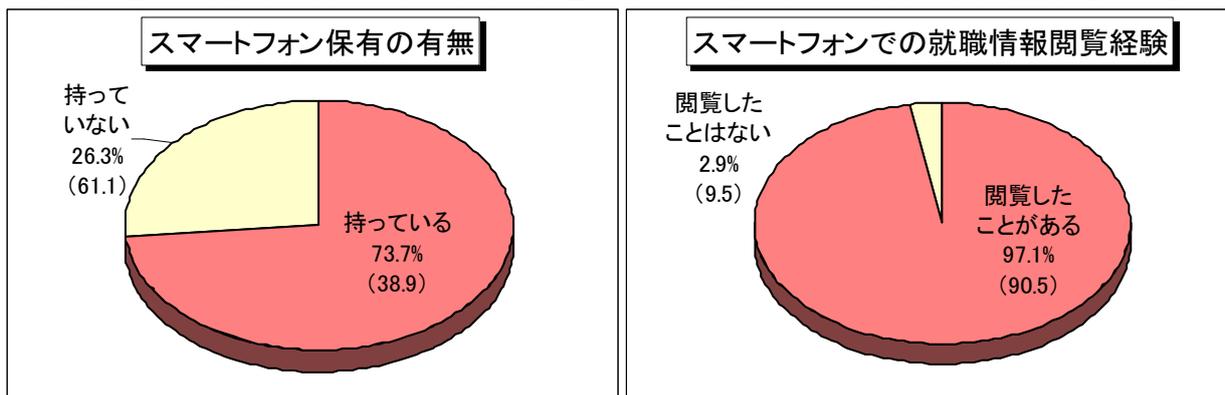
9. アドバイスを参考にしている人

就職活動に関してどんな人の意見やアドバイスを参考にしているのかを聞いた。注目したいのが、「就職課（キャリアセンター）」が前年より 5.7 ポイント増えて 3 番目にきている点だ。大幅なスケジュール変更により前年までの情報が参考になりにくい中で、ガイダンスを積極的に開催してきたキャリアセンターに、学生が信頼を寄せている一端が垣間見られる。



10. スマートフォンの保有状況

外出先からでもセミナーや選考試験などの予約ができることあって、スマートフォンの保有率は前年より大幅に伸びた。73.7%と7割を超えている。前年までは持っている学生のほうが少数派で優位性が発揮できたが、大半が持つようになると、逆に持っていない学生が不利になる可能性もでてきた。



※()内は 2011 年 1 月調査の数字

《調査概要》

調査対象：2013年3月卒業予定の全国の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
 回答数：1,556人（文系男子529人、文系女子480人、理系男子377人、理系女子170人）
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2012年1月1日～2012年1月9日
 サンプル：日経就職ナビ2013 就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。日経就職ナビは株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。